

飯田市

# 平和祈念館を考える会 学習会③

日時 2023年5月28日(日)午後1:30~4:00

会場 飯田市公民館2階 多目的ホール (TEL 22-1132)  
(飯田駅前 丘の上結いスクエア)

テーマ 清水 英男さん証言

「731部隊少年隊・平和祈念館」

(資料代 500円)

今後の運動のあり方についても意見交換します

上伊那郡宮田村出身の清水英男さんは、担任の先生の推薦で国民学校高等科卒業とともに満州に渡り、731部隊少年隊に入隊しました。「当時私は14歳、同期は34名」上伊那から8人、下伊那から3人が少年隊に入隊しました。

## 蒸しまんじゅうを食べて

清水さんは、先輩の研究者がくれた、ネズミ等動物に与える蒸しまんじゅうを食べたところ42~43度の高熱が出て1週間ほどなされました。「バイ菌の感染ではないかと思ったが、その間ベッドに寝かされ、1日1回脈拍と体温を測りに衛生兵が来るのみでした。1週間後にやっと注射を打ってくれて熱が下がりました。その際に『今後診療所へ行った時には注射を打ったことは口外しないように』と口止めされました。」

## 特設監獄に入り人骨を拾う

1945(昭和20)年8月12日、清水さんたち少年隊員はマルタ(捕らえられ生体実験用に731部隊に送り込まれてきた中国人など)が閉じ込められていた特設監獄に入り、焼いた人骨を拾う作業を命じられました。終わった時点で特設監獄を爆破するための弾薬運搬を行い、その後退避命令が出たためボイラー室の陰まで逃げました。爆弾によって破壊した破片が5階ほどの建物を飛び越えて飛んできたそうです。

## 戦後は郷里で建築業を

「731部隊のことは一切口外してはならない」と命令されたことを守って、家族にも言わずに、働き口もないので父親の大工の仕事を手伝いながら経験を積み長年かかって建築士の資格を取って事務所を開設し現在に至っています。

## 平和のために

「事実は事実として受け止めていただきたいと思います。」92歳の清水さんは、自らの体験を語ることで子どもたちに戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さをわかってもらいたいと願っています。



1945(昭和20)年、宮田村の国民学校卒業とともに、14歳で満州の731部隊に少年隊として

※「しんぶん赤旗」5月9日(火)付に清水英男さんの証言が掲載されています。

主催:飯田市平和祈念館を考える会  
代表:唐沢慶治 事務局:090-1829-5063(原)